

教科	芸術	科目	音楽 I			単位数	2 単位
学科	普通科 工業科	履修 学年	1 学年	コース		必修・選 択	必修
教科書	MOUS A 1 (教育芸術社)						
副教材等	なし						

グラデュエーション ・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム ・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学 習 目 標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 楽想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
指導の重点	① 発声の基本を学習しながら、歌うことの楽しさを感じる心を育てる。 ② 基本的な楽典を習得し、読譜力を育てる。 ③ 楽器に応じた奏法を身に付け、視奏力の充実とともに個性豊かな表現の育成を目指す。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容（学習活動）	評価方法
	1 学期 (20)	独唱曲を歌う（10）	・腹式呼吸による発声で歌う。 ・正確なリズムと音程で歌う。 ・日本語だけでなく、ドイツ語、イタリア語等原語で歌うことで、各特徴を捉える。 ・演奏に関する基礎的な楽語を習得する。	・授業の取り組み ・実技テスト
		器楽曲に触れる①（10） — ギター弾き語りに挑戦 —	・器楽の基本的な奏法を習得する。特にギターの基本的な奏法を学習し、弾き語りに挑戦する。	・授業の取り組み ・実技テスト
	2 学期 (24)	アンサンブルの響きを味わう — 合唱曲を中心に — （6）	・各パートの特徴や役割を理解する。 ・主体的にパート練習をする。 ・アンサンブルのよさを体感しながら合唱する。	・授業の取り組み ・グループ発表
		器楽曲に触れる② — ヴァイオリンに挑戦 — （7）	・ヴァイオリンの基本的な奏法を学び、簡単な楽曲を弾く。	・授業の取り組み ・実技テスト
		西洋音楽の流れについて学ぶ （3）	・プリントと DVD の鑑賞を通して、西洋音楽の流れをつかむ。	・プリントの提出 ・ペーパーテスト
		日本の伝統音楽の流れについて学ぶ （3） 器楽曲に触れる③ — オカリナに挑戦 — （5）	・日本の伝統楽器の正しい奏法を学び、併せて他国の音楽との違いをつかむ。 ・オカリナの基本的な奏法を学ぶ。 ・オカリナ独特の響きを感じ取る。	・授業の取り組み ・プリントの提出 ・ペーパーテスト ・授業の取組 ・実技テスト
3 学期 (20)	アンサンブルの響きを味わう — ハンドベルを中心に — （1 2）	・ハンドベルの演奏方法を学ぶ。 ・グループを決め、選曲をする。 ・楽曲全体の流れを感じながら、アンサンブルをする。	・授業の取り組み ・グループ発表	
	オルゴール制作（8）	・作曲方法を学ぶ。 ・作曲をする。 ・作曲カードを制作する。 ・オルゴールを演奏し完成した曲を披露する。	・授業への取り組み ・曲の完成度	
計 6 4 時間（5 5 分授業）				

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽に対する理解を深め、創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけている。	音楽を形づくっている要素の働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図を持って演奏している。	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、ペーパーテストやプリントの提出などから評価します。	以上の観点を踏まえ、実技テストやグループ発表などから評価します。	以上の観点を踏まえ、授業の取り組み、プリントの提出などから評価します。